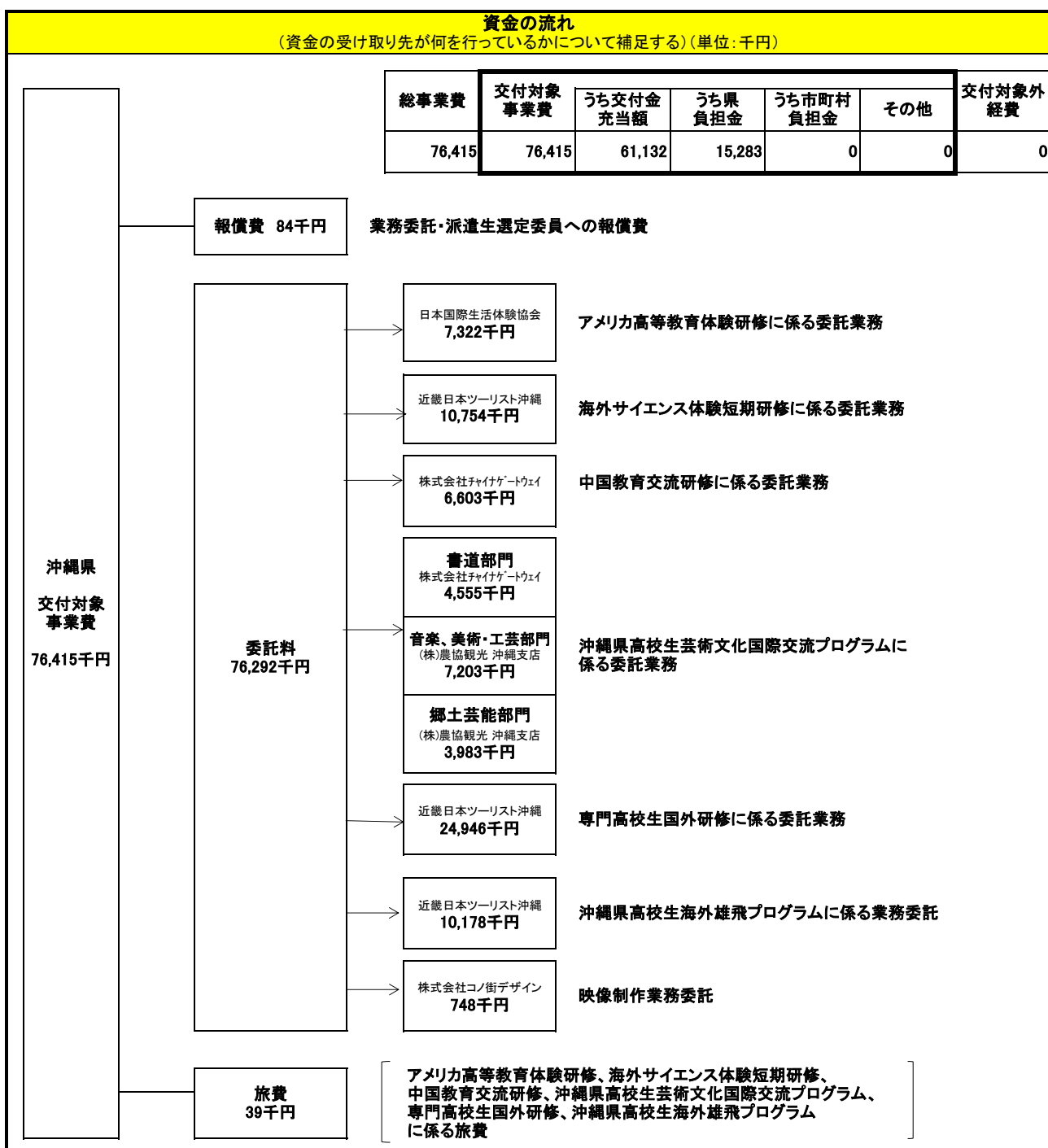


## 令和3年度沖縄振興特別推進交付金事業(県分)検証シート【公表用】

事業番号・事業名	210	グローバル・リーダー育成海外短期研修事業	沖縄21世紀ビジョン基本計画該当箇所	第3章-5-(4)-ア			
担当部課名	教育庁県立学校教育課・文化財課	事業実施(予定)年度	H24 ~ R3 年度	沖縄振興基本方針該当箇所	国際社会、情報社会に対応した教育の推進 Ⅲ-3-(1)		
事業内容	海外短期研修として、高校生214名を欧米、中国、オーストラリア、ドイツ、ハワイへ派遣する。						
効果発現年度	■当年度    □後年度(    年度)						
実施方法	■直接実施    ■委託    □補助    □負担    □その他(    )						
予算額・執行額 【単位:千円】		R1年度	R1年度(繰越)	R2年度	R2年度(繰越)	R3年度	
	予算の状況	(a)当初予算額	131,498		131,079		132,975
		(b)予算現額	131,498				132,975
		(c)増減額(b-a)			▲ 131,079		0
		(d)前年度繰越額					
	A. 計(b+d)		131,498		0		132,975
	B. 執行済額		107,691		0		76,415
	うち交付金充当額		86,152		0		61,132
	C. 次年度繰越額		0		0		0
	執行率(%) (B/A)		81.9%		0.0%		57.5%
予算の状況の説明		執行率は57.5%であり、海外派遣ができなかったため代替研修(オンライン)を実施したが、旅費および委託料の執行残が生じたことによるものである。					
活動目標(指標)及び進捗状況	R3活動目標(指標)		進捗状況				
			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	
	国際的な視野を広げ、グローバルな人材の育成を図る。(海外短期研修派遣者数)	目標	215人	214人	214人	214人	
		実績	215人	144人	-	-	
	国際的な視野を広げ、グローバルな人材の育成を図る。(代替研修参加者数)	目標	-	-	-	-	
		実績	-	-	-	206人	
進捗状況説明	R3年度は、新型コロナウイルスの世界的な感染拡大に伴い、安心・安全の観点から代替研修を実施した。						
成果目標(指標)及び達成状況		基準値(〇〇年度)	R1年度	R2年度	R3年度	目標値(R4年度)	
	保護者へのアンケートで、参加した生徒の国際的な視野がより広まったか(80%以上)を含め、当該事業のあり方をアンケートにより検証する。	目標		80%以上	80%以上	80%以上	-
		実績		95.2%	-	94.4%	-
	達成状況説明	・各研修実施後の保護者アンケート(設問:「参加した高校生(お子さん)は、国際的な視野が広まったと思うか等」)を実施したところ、①アメリカ高等教育体験研修(94.6%)、②海外サイエンス体験短期研修(100%)、③中国教育交流研修(100%)、④沖縄県高校生芸術文化国際交流プログラム(82.8%)、⑤専門高校生国外研修(94.0%)、⑥沖縄県高校生海外雄飛プログラム(94.7%)という結果が得られたことから、達成できた。					

推進上の留意点(推進上の問題、外部環境の変化)	改善余地の検証(効率の更なる向上の視点)
<b>取組の検証</b> ①現地研修において自ら進んで研修へ参加する意欲を育むため、事前研修ではコミュニケーションツールとしての語学力を身につける語学研修や異文化理解について学ばせる必要がある。 ②研修先において現地大学での講義やホームステイ先でのコミュニケーション等を考え、語学力の高い生徒や積極性のある生徒を選考する必要がある。 ③新たに委託される業者が、前年同様に選考試験、事前事後研修、本研修に係る業務、現地での緊急対応、精算業務を円滑に行えるよう、連絡調整を密に行う必要がある。	①事前研修等における外国語講師を活用した語学研修の充実や異文化理解について前年度派遣生、引率教諭による体験談から生活習慣の違い等を学ばせる必要がある。 ②実践的な外国語のコミュニケーション能力を測るため、英作文試験や面接試験において語学力、積極性を測る選考試験を実施する必要がある。 ③委託業務の円滑な実施や、外務省および大使館等からの海外渡航情報入手が迅速に行えるよう、委託業者や現地事務所等との連携を図る。
今後の取り組み方針	
①引き続き、現地研修をより深い学びへと繋げるため、ホームステイや学校生活を想定した英語運用能力をより高める研修や異文化理解についての事前研修を実施。 ②実践的な外国語コミュニケーション能力を測る英作文試験や面接試験内容の構築。 ③受託業者と現地での緊急時を含めた対応・体制について、綿密な報告・連絡・相談を行う。 ④事前研修からオンライン研修を取り入れ、新型コロナウイルス感染症等の影響で海外派遣できない場合は、代替研修としてオンライン(オンデマンド)研修等を実施する。	



資金 使途の 流れ・ 費目・ 評価	評価	点 検 項 目	評価に関する説明
	○	支出先の選定方法は妥当か。	<p>○委託事業者は公募型プロポーザル方式により企業組織、実績、知識等を勘案した上で選定しており、妥当であったと考えている。</p> <p>○費目・使途については事業目的達成の観点から必要なものなのか等について額の確定時において支出等に関する書類により確認、適正であった。</p>
	○	予算規模は事業内容に見合った適正な規模となっているか。	
	-	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	